

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年3月4日

No.18

**組合員の努力の結果は経営指標で明確になっている！
会社はベースアップで組合員の努力に報いよ！**

～2015春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日10時30分より第3回交渉を行い、春闘要求の根拠について明らかにしました。中央本部の今春闘に対する要求の根拠は以下の通りです。

- (1) 消費税引き上げや、円安誘導によって物価上昇が続いており、各種公共料金の値上げや生活関連物資の値上げが相次ぐなど組合員の可処分所得は減少している。組合員があたり前の生活を維持していく為にも6,000円のベースアップは当然の要求である。
- (2) JR貨物は今後モーダルシフトの担い手としてその使命はますます重要になる。その使命を果たすためには、そこで働く組合員が働きやすい職場環境を整備するとともに「人」に対する投資としてのベースアップ実施、55歳以上の賃金ダウン改善、契約・臨時社員及び嘱託社員の賃金改善は経営陣としての責務である。
- (3) 15年連続ベアゼロの影響により組合員の生活は限界にきている。一方で組合員の努力により主要列車の純平日のコンテナ積載率は70%後半まで上昇しており、消費増税の反動や東海道線寸断の影響を受けながらも、今年度も経常利益を計上できる状況にある。よって会社の支払い能力は十分ある。
- (4) 自然災害や輸送障害に対して組合員は、安全と安定輸送の確保に向けて超過勤務や休日出勤にも協力し全力を挙げている。この苦勞に報いるためにはB単価の増額が必須である。社員構成も平成採用者が7割を超え、結婚・出産など新たな生活基盤を抱えており扶養手当の増額や諸要求の改善は切実な要求である。
- (5) これまで自ら立てた計画が未達であっても会社経営陣は誰も責任を取っていない。そのような会社の姿勢に組合員は不安を抱えている。会社経営陣は、組合員の不安を解消し安心して働くことができる将来展望を明確に示すことが必須条件である。その現し方として「要求満額回答」という目に見える形で応えよ。

我々の要求根拠に対して会社は、現段階の考え方を以下のように示しました。

- ① 施策の実施に対し、様々なご協力をいただいたことに改めて感謝申し上げます。
- ② 2月期の収入動向は輸送障害により計画未達である。今年度について経常利益は計上できる見込みだが、鉄道事業部門の赤字幅は拡大している。来年度の事業計画の策定にあたり、鉄道事業部門の黒字化に向けて、慎重に判断せざるを得ない。

(前頁より)

会社「現時点考え方を示すまでの議論は煮詰まっていない」

会社は交渉の中で「組合の要求について会社として違和感を持っていないし、今年の春闘に対する貨物労組の臨む姿勢は認識している」としながらも、「次年度の事業計画の策定を進めていく中で、経費面を含めて慎重にならざるを得ないが、社内の議論が詰め切れていない。現時点定期昇給を含めた考え方について示すことは出来ない。第4回交渉で会社の考え方は明らかにしたい」と回答しました。

組合「将来展望を示すことは会社の責務！満額回答で応えよ！」

中央本部は、多数の輸送障害がありながら主要列車の平均積載率はこの2年間で70%代後半まで向上するなど、組合員の努力の結果は経営指標により明らかになっている。今年度について経常利益を計上する見込みであるが、その利益を作り出したのは組合員である。一方で将来展望に不安を感じて資格や技術力を持った中堅社員の退職が増加傾向にある。それはこれまで15年連続ベアゼロを行なうなど、人に対する投資を怠ってきた結果である。組合員が生み出した利益の還元と貨物会社の将来展望を明確にすることは会社経営陣の当然の責務である。本日の議論を真摯に受け止め、ベースアップの実施を含めた回答を示すことを通告し第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん。15春闘は今日から闘争ゾーンに入ります。要求満額獲得・諸要求の実現に向けて、それぞれの職場から切実な「声」をこれからのたたかいに結集させ、会社に対峙していかうではありませんか。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月12日(木)です。